

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：八木 風輝

氏名のローマ字表記： Yagi Fuki

所属：総合研究大学院大学 文化科学研究科 比較文化学専攻 博士後期課程

専門分野：文化人類学、民族音楽学

発表のタイトル：

モンゴル国におけるカザフ音楽のアーカイブズ—バヤンウルギー県地方テレビ・ラジオ局所蔵の「アルタンコル」の活動を中心に

発表要旨（770字）：

本発表では、モンゴル国最西部バヤンウルギー県の地方テレビ・ラジオ局にあるカザフ音楽アーカイブ「アルタンコル（金庫：メディアアーカイブにつけられる名称）」の活動について発表する。

社会主義期のモンゴル人民共和国では、記録保存の技術と制度がソ連から持ち込まれ、国内の各地域の芸能や音楽が保存され活用されてきた。例えば、エスニックグループのオリアンハイが語る英雄叙事詩や地域毎の音楽が社会主義期に録音・保存・整理されてきた。

バヤンウルギー県はカザフ人が人口の約9割（約9万人）を占め、彼らはモンゴル国でハルハ人に次ぐ規模のエスニック・グループである。社会主義期、カザフ共和国（現カザフスタン）との結びつきが強かった。そのため、1950年代以降、バヤンウルギー県のカザフ人は楽器・楽譜・音楽家らの移動（住）を通じて、カザフ共和国のカザフ音楽を主流に演奏するようになった。

こうした背景の中で、バヤンウルギー県に住む演奏者らの音楽が「アルタンコル」にて録音・保存された。ラジオ放送に用いる音源の保管を目的に1960年代後半に設立された「アルタンコル」には、2000本を超える磁気テープにモンゴル語・カザフ語・ロシア語などの曲が収録されている。また、収録音源は、県で唯一のラジオ番組「トゴズ（9の意味：午後9時から放送）」内で現在も活用されている。磁気テープで保管されてきた音源は、2000年代後半から当県のラジオ・テレビ局にコンピューターが導入され、デジタル音源への移行作業により現在7割の音源がデジタル化されている。

本発表では、2018年度の春から夏にかけて行った調査の結果に基づき、「アルタンコル」内の音源の内容と音源が収録されるに至った背景を説明する。その上で、「アルタンコル」が、社会主義期から現在にかけてモンゴル国のカザフ音楽において果たした社会的な役割に関して考察したい。